学校だより

間瀬小学校

一、まえがき

本年度より村広報紙に学校だよりの掲載が始められたことは、すでにご承知のことと存じます。

間瀬小学校は、七月、十一月、三月の担当ということで、その内容を次のように計画してみました。よろしく願います。

七月　間瀬小学校の歴史をふりかえって

・十一月現在の学校のすがた

・三月　間瀬小学校の未来像

二、間瀬小学校の歴史の一端

・明治六年、沿革史によれば「抑本村の地勢タルヤ三島郡ノ最北隅ニシテ弥彦山ノ乱波其三面ヲ囲基シ洋々タル日本海ヲ……民其業タル甚ダ簡其職タル甚ダ素民夫レ愚ナラザルヲ欲スルモ豈得ベケンヤ

玆ニ明治六年学校開設ノ御発布アルヤ本村戸長宝輪儀吉村民重立ト相謀リ一ノ小学校ヲ興サンコトヲ力メ能ク其ノ頑愚ヲ撫論シ新制ノ旨趣ヲ貫キ同年九月遂ニ当校ヲ創設シテ云々」と記されている。このように、かつては隔絶された間瀬の地でありながら、他にさきがけていち早く学校を開設した先人の明は永く伝統となり、幾多の人材を輩出させた原動力となった。

学校創立の功労者
宝輪儀吉氏

・明治八年、全村の大火災により学校も類焼したが、この惨事にもめげず、すぐさま新校舎の建設がなされた。

・明治十九年、数年来の饑饉により、村民の大半は草根木実をとる生活を余儀なくされ、廃校や休校の声がみじみと感慨をもらしておられる。

・昭和八年、校舎増築工事完成。これが現南側四教室である。

・昭和十八年、新潟第一師範学校地方実習校として文部省より指定される。当時教生として教育実習した人達は、現在五十才前後の年令であり思いがけぬ所で間瀬校教生時代の話しを懐しそうに語りかけられることがある。

以上創立より現在に至る歴史のごく一部を紹介したのであるが、ここに卒業生の愛校心についてふれてみたい。当校の出身者のうち郷里に止まらず遠く他郷に勇飛して活躍されている方は多いが、いつまでも母校を忘れず後輩のためにと援助協力を惜しまないようすが、沿革史の示すところ創立以来の美風であったことがうかがわれる。そのため学校の施設設備の点からいっても常に一流水準を維持して来たのではなかろうか。これは現在でも引き継がれ施設充実への援助とか他の例として四名の有志によって毎年末、子どもたちへの贈り物が数年にわたり続けられていることなどもあり当校の職員として常に感謝している所である。また村在住の方々も学校を地区団結の中心として事ある毎に協力を惜しまないよう学校のためにと奉仕を続けてこられている。職員に対しても常に親和の気持で接して下されば例えば下宿者に対しては欲得ぬきの親身も及ばぬお世話は、一度経験した人達のいつも語られる事柄である。

三、おわりに

広くその名を知られた本間俊平先生はじめ、各界に幾多の人材を送り出したゆえんのものは、つまるところ三方に山をめぐらし日本海を眼前にひかえた景観豊かな自然と、間瀬小学校創設時代の功労者宝輪儀吉氏の精神を受けつぎ、教育の振興こそ人づくりの根本であるとの伝統を生かし続けてきた卒業生の皆さん、地元の人々の熱意の反映ではなかろうかとしみじみ想っております。

テレビで岩室が!!

7月5日放送

去る五月二十八日に、岩室温泉街を中心にテレビ番組「特別機動捜査隊」の撮映がおこなわれましたが、いよいよ七月五日午後十時からNSTテレビで放映されます。

村内で顔なじみの方々も多数登場しますので、是非ご覧下さい。

おめでた　おくやみ　6月19日まで

婚姻の部

氏名	前住所	新住所
亀山（小柳）春江	和納分水町7	和納7
伊藤（加藤）和子	和納和納3	和納3
佐藤（青木）セツ	和納中之口村1	和納1
阿部（福田）ヨミ子	和納和納46	和納6
新太郎		

出生の部

氏名	生年月日	保護者	部落
渡辺智早	4・21	樋曾和納6	和納
坂下貴子	4・23	達也	
木村悟昭	5・9	春夫	岩室
寒阿江祥	5・13	真弥	石瀬
玉木邦裕	5・13	日出男	和納7
田中和彦	5・17	信雄	橋本
成田真一	5・24	秀一	横曾根
槇田さつき	5・27	仁	西船越
堀川美香	5・27	徳司	和納6
小林和美	5・27	誠一	和納8
大平紀美代	5・28	新市	和納1
山崎明美	6・7	登	和納
坂爪純子	6・7	惣一郎	油島

死亡の部

氏名	年令	死亡月日	世帯主	部落
錠水庄キミ	61	5・22	悦郎	間瀬5
野川芳一	13	5・23	栄男	高畑
深川セヨ	79	5・29	芳雄	石瀬
五十嵐クシ	72	6・2	悦郎	間瀬4
五十嵐マサ	79	6・4	六造	石瀬
高橋通	78	6・18	群司	岩室
佐藤	21			